

おやじの教え

加藤 誓 (ちかい)

おふくろの包丁の心地よい音で目が覚めた。

そうだ、今日は中津川市制記念運動会の日だ。

既に外は明るくなっていた。天気だ。

昭和27年5月 私が8歳で、6歳と4歳の弟も気合が入っていた。

我が家は南小学校学区の応援団を

引き受けて2回目である。

衣装は おふくろが縫った羽織と袴

おやじが作った大学角帽とメガネと髭、

日の丸の扇子、そして大きな高下駄である。

おやじを先頭に3人兄弟のチャチャチャ、

チャチャチャの「三三七拍子」に併せ、

南小学校学区チームの笑いの応援が

運動会の会場に響きわたる。



少し恥ずかしい子供心も 次第に快感になってゆく。

時折夢に出で来る場面である。

幼い時のおやじとの一番の思い出であり、おやじの一番の教育でもあつた。

今日は、名東区なごやかクラブの

「長島温泉芸能大会の日」である。

演題は、「東京の花売り娘」で 余興衣装は古着を加工し

フラダンス風に 女房に作ってもらった。

舞台裏で出番を待つ時は、恥ずかしさと 興奮の入り混じった

心地良い状態である。歌が始まった。さあ、出番だ。



観衆の大きな笑いと声援に後押しされ というと

格好いいが、 私自身の喜びの爆発である。

即興の踊りを演じ切れた。

おやじの教えを また 実行したことを

天に向かって報告した。



「三つ子の魂 百までも」